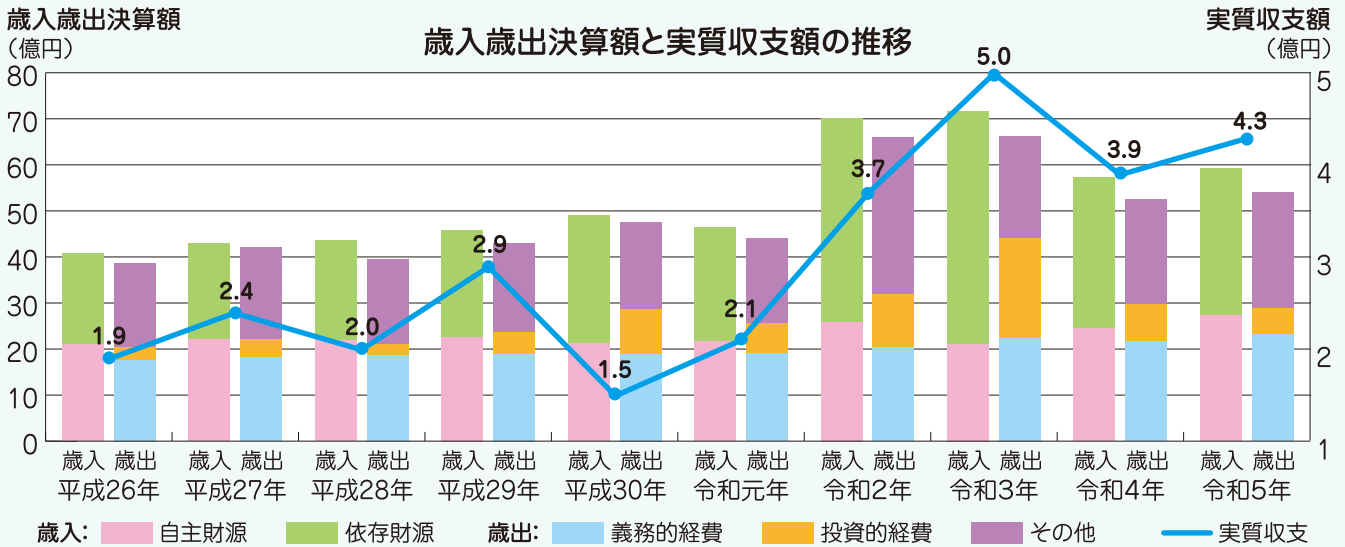


# 町の財政状況について解説します

問 政策推進課 財政係  
☎ (83) 1222

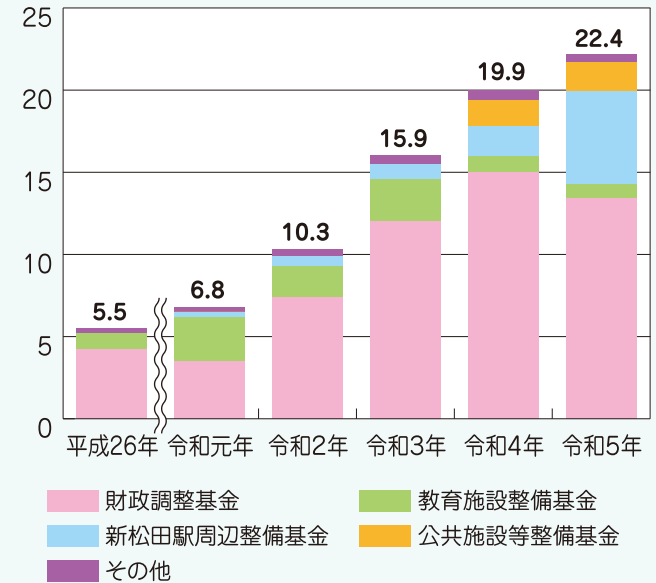
## ◆過去10年間の決算額の推移について



歳入歳出決算額 (億円)

	平成26年	平成30年	令和5年
自主財源	21.0	21.2	27.3
うち町税	16.0	15.6	15.6
うち寄附金	0	1.0	1.7
依存財源	19.9	28.0	31.9
うち地方交付税	8.3	8.4	13.6
うち国庫支出金	3.1	6.8	8.2
<b>歳入 合計</b>	<b>40.8</b>	<b>49.2</b>	<b>59.2</b>
義務的経費	17.6	18.9	23.2
うち扶助費	5.2	6.2	8.6
投資的経費	2.8	9.8	5.7
その他	18.3	18.7	25.1
<b>歳出 合計</b>	<b>38.8</b>	<b>47.4</b>	<b>54.0</b>

基金(貯金)年度末残高の推移 (億円)



町の歳入歳出決算額と実質収支額の過去10年間の推移を見ると、決算額の規模は年々大きくなっていることがわかります。

主な要因としては、歳出では、**義務的経費**(※1)が大きく増加しており、特に**扶助費**(※2)は10年前と比較して約1.7倍になっています。また、**投資的経費**(※3)も松田小学校整備事業などの大型公共事業の実施や老朽化の進む施設の改修・更新により増加しています。

一方、歳入は、収入の柱である町税が少しずつ減少傾向にあり、限られた財源の中で事業を実施するため、新規事業や大型事業を実施する際は、知恵と工夫により各種補助金を獲得してきたほか、ふるさと納税などの新たな財源の確保にも努めていることにより、総額としては大きく増加しています。

**実質収支額**(※4)は、近年、**効率的な予算執行により大きく黒字となる年度が続いています**。この黒字額は翌年度へと繰り越されますが、翌年度に実施する事業の財源として全額を使うのではなく、**将来に備えて財政調整基金などの各基金へ積み立てています**。

その結果、**基金の総額はこの10年間で約4・1倍まで積み増すことができています**。